

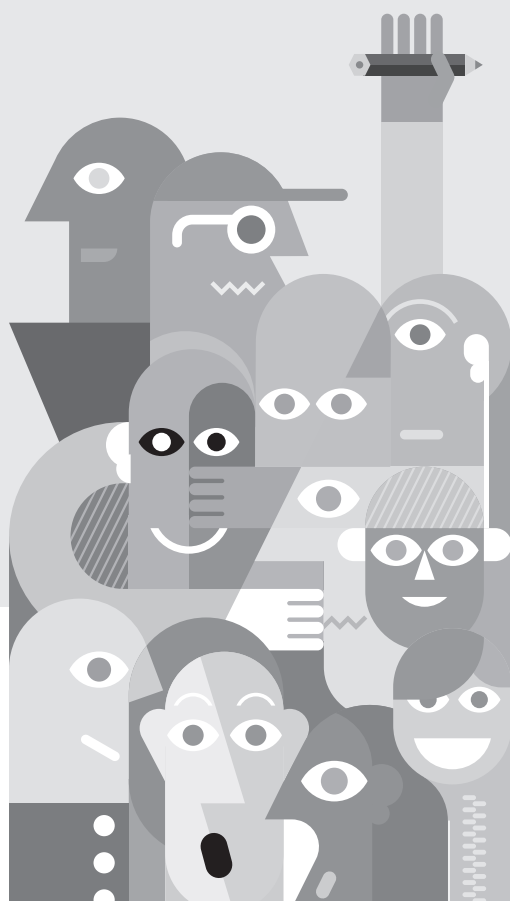
書くこと 中級作文 を楽しむ

おしゃべり
しながら

杉浦千里
SUGIURA Chisato

木戸光子
KIDO Mitsuko

[著]





もくじ

はじめに	—— さくぶん 作文を勉強するみなさんへ——	ii
この本を使用される先生方へ	ほん しやう せんせい がた	iii
学習項目一覧	がくしゅうこうもくいちらん	vi
アイコンの紹介	しょうかい	viii

べっさつ ふろく
【別冊付録】
さくぶん
「作文ノート」

このテキストで勉強する前に	べんきやう まえ ちから さくぶん 力だめし作文	1
第 1 課	だい か わたし あらわ かん じ 「私を表す漢字」	2
	▶「理由」を詳しく、わかりやすく書きます。	
第 2 課	だい か わたし 「私のおすすめ」	10
	▶詳しく、わかりやすく「説明」する作文を書きます。	
第 3 課	だい か りゅうがく じゅん び 「留学の準備」	20
	▶やり方を順番に説明する作文を書きます。	
第 4 課	だい か わたし ふ つう 「私の『普通』とあなたの『普通』」	30
	▶2つのことを比べて意見を述べる作文を書きます。	
第 5 課	だい か あさがた よるがた 「朝型か、夜型か」	38
	▶深く考え、それを論理的に (logically) 書きます。	
第 6 課	だい か よ か 「グラフを読む・グラフを書く」	49
	▶日本語でグラフを説明する基本的な練習をします。	
第 7 課	だい か よ い けん の 「グラフを読む・意見を述べる」	59
	▶もっと難しいグラフの説明をやってみます。	
第 8 課	だい か そう 総まとめ	69
	▶自分の作文力の変化を確かめます。	
もっと！作文ルール	さくぶん	77
解答例	かいとうれい	87
参考文献	さんこうぶんけん	94
あとがき		95



はじめに — 作文を勉強するみなさんへ —

あなたは作文が好きですか。他の人にも聞いてみてください。……どうでしたか。

「何をどうやって書いたらいいかわからない」「題がつまらない」「考えるのが苦手」……、だから作文は嫌いだと思っている人もいるでしょう。このテキストはそんな人のために作りました。楽しくおしゃべりしながらアイデアを考え、作文のルールを学んで正しく書き、それをお互いに読んで話し合い、もっといい言葉、ぴったりの表現に変えて書き直します。これを何回も繰り返すと、だんだん作文を書くことが好きになるかもしれません。

もちろん作文が好きな人は、今よりもっと上手に、どんどん書けるようになるでしょう。

さあ、どうぞ、やってみてください。

1 目標

- よく知っていることについて、400 字ぐらいのまとまりのある作文が書ける。
- 読み手に伝わる（読んでよかったと思える）文章が書ける。
- 適切な「書き言葉」と「文体」で書ける。
- 正しい日本語作文のルールを守って書ける。
- 語彙・表現・文法・文型を学ぶ。

2 対象者

初級レベルの学習が終わった人。中級レベルで書くのが苦手な人。

3 各課の流れ

4 つの活動があります。

かつどう 活動 1	アイデアさがし	ペアやグループで楽しく話しながらたくさんアイデアを出します。アウトラインを使って、そのアイデアをわかりやすく話します。
かつどう 活動 2	作文ルール	アイデアをわかりやすく書くためのルールを学び、練習します。
かつどう 活動 3	作文を書く	アイデアとルールを使って、さあ、書きましょう。
かつどう 活動 4	フィードバック	チェックされたところを直したり、他の人の作文を読んだりします。どんな作文が「いい作文」か、考えます。

4 この本の上手な使い方

- 他の人と話しながら学びましょう。
- 作文は必ず音読しましょう。音読すると言葉の使い方がよくわかります。



この本を使用される先生方へ

「作文が好きですか。好きじゃないですか。」そう質問すると、好きだという学生はほんの少し、多くの学生は「好きじゃない」に手を挙げます。実は、私たちがこの教科書の試作版を 3 年間使った授業でいつも同じ光景が見られました。ところが、授業の最後に教科書についてアンケートをすると、ほとんどの学生が「作文が好きになりました。」と答えてくれました。この授業では静かに作文を書く時間より、学生同士でわいわいがやがや話す時間のほうが多くなります。この話題についてもっと話したい、そんな学生たちが夢中になって自分の言いたいことを相手に話しています。

「協働」や「アクティブラーニング」など日本語教育でも学習者主体の授業が求められるようになっています。とはいえ、実際の授業ではそう簡単には学生たちの積極的な姿は見られません。特に作文では……。いいえ、教科書次第で、授業方法次第で学生も授業も先生も変われます。

以下のリストにどのぐらい当てはまりますか？ もし半分以上当てはまるなら、この教科書を使ってください。作文の授業を楽しんでほしいと願っています。

学生を変えたい！

- ☐ 作文いやだな～と暗い顔をしている学生に「作文、楽しいかも」と思わせたい。
- ☐ 書くことは考えること、考えることは意外と楽しいこと、と思ってほしい。

授業活動を変えたい！

- ☐ どんより、またはし～んとしがちな作文の授業を何とかしたい。
- ☐ せっかくのクラス授業なので、個人作業ではなく協働して学んでほしい。
- ☐ 書き上げた作文を学生同士で共有する教室活動ってどうすればいいの？

授業内容を変えたい！

- ☐ 何を目標として、何のために作文を書かせるのか、よくわからない。その指針がほしい。
- ☐ 学生の作文の何をどうやって評価すればいいの？
- ☐ 毎度、作文の題に苦慮する。書く力を有機的に成長させるステップがあるんじゃないか。

教え方を変えたい！

- ☐ 何度読んでも何が言いたいのかよくわからず、頭痛がする作文添削から解放されたい。
- ☐ 苦勞して添削しても、学生はたいして読みもせずカバンの中に入れてしまう。何かいい活用方法が知りたい。
- ☐ 学生が書き上げた作文を書いたままで終わらせるのはもったいない。

●有意義な作文授業をつくるヒント

1 学習者の協働を促す

「作文は一人で黙々と書くもの」という学習者の（教師も？）考えを、「作文はまずおしゃべりから始まる」という方向に変えてもらうことが出発点です。そのためには学習者同士が気楽に話せる関係づくりが大切です。初回の授業でネームカードを作って覚えるまでしばらく使う、お互いの顔を見ながら話せる机や椅子の配置にする、ペア / グループが固定化しないように配慮する等の工夫をしてみてください（するとしないとでは大違いです）。と同時に、自己開示の速度や深度には個人差がありますから、強要しないことも重要です。

2 時間配分

学習者が気楽に、自由に「おしゃべり」している姿は一見無駄な時間のように見えるかもしれませんが、実はこれが最も重要な時間です。

「おしゃべり」が作文のアイディアになるまでには時間がかかります。学習者は「あるテーマについて考えながら日本語で表現し、相手の話を聞いてさらに意見を付け加える。その間にも他の言いたいことが生まれ、または他者から提示され、それについてさらに考え日本語で表現する」という複雑な作業を行っています。これが十分に行えれば、そのあとに続く「作文」が豊かなものになります。ですから、この時間を授業の中で十分に確保してください。

下の図は時間配分のイメージです。

作文フィードバック	アイディアさがし (おしゃべり+アウトライン)	作文ルール	作文を書く*
-----------	----------------------------	-------	--------

今日の活動説明

次回の予告・宿題確認

※作文ルールに時間がかかるときは「作文を書く」は宿題にします。

3 文法の授業にしない

教科書にある「作文ルール」には接続語など文法の説明も入っています。これらの「作文ルール」は各課のアウトライン（構成）をわかりやすくしたり、作文を書きやすくしたりするためにあります。ですから、「作文ルール」は文法の練習問題で終わらせず、自分が書いた作文のどこに使っているか（またはいないか）を学習者自身に点検させてください。マーカーで線を引くなど、具体的な活動が有効です。

自分が言いたいことはこのような文法を使うとよりよく表現できると実感できる使い方をすることが重要です。

4 作文添削のヒント

別冊の「作文ノート」にある作文チェック記号（別冊 p.2）を使って、学習者に「考えさせる」ことをお勧めします。さらに、共通して間違いの多いものを抜き出してクイズを作るのも効果的です。

作文評価は「教師が採点したものを渡す」だけでもいいですし、「空欄で返して学習者が自己採点し、そのあとで教師の採点を渡してその違いを考える」という方法も可能です。

どのような方法であれ、教師が懸命に赤ペン添削したものを学習者が一瞥して終わりというむなしい作業はやめたいものです。

添削の方法については凡人社のウェブサイトで配信する「教師用引き」の「作文フィードバックのしかた」も参考にしてください。

【凡人社ウェブサイト内特設ページ】（2020 年現在）
http://www.bonjinsha.com/wp/chukyu_sakubun



5 作文音読の効果

各課のモデル作文や学生の書いた作文は必ずクラスで音読するようにしてください。モデル作文を音読することは、効果的なアウトラインを意識することにつながります。また、自分の作文を他の人に読み聞かせることは、自分の使った表現や構成の確認に役立ちます。漢字圏の人は、読み方や意味があいまいな漢字語彙を音読によって確かめられますし、漢字語彙が難しいと思っている非漢字圏の人は、テキストのモデル作文やお互いの作文を音読することによって、語彙や文法などの表現を学び合えます。漢字圏、非漢字圏の人がペアを組むことで相互の弱点を補完する働きも生まれます。



課	活動 1 アイデアさがし	活動 2 作文ルールを学ぼう	活動 3 作文を書く	活動 4 フィードバック
このテキストで 勉強する前に	■ 力だめし作文			
第 1 課 「私を表す漢字」 (p.2)	■ ペア / グループで話しましょう 【理由を話す・言葉を増やす】 ■ アウトラインを使いましょう	■ ルール 1. 「です・ます体」ではな く「普通体」で書く (p.6) ■ もっと！作文ルール 1. 文体の違い (p.78)	作文① 「私を表す漢字」 を書く	作文①の フィード バック
第 2 課 「私のおすすめ」 (p.10)	■ ペア / グループで話しましょう 【説明する・質問して話を広げ る】 ■ アウトラインを使いましょう	■ ルール 2. 「話し言葉」ではなく 「書き言葉」で書く (p.15) ■ もっと！作文ルール 2. 話し言葉の縮約形と書 き言葉の違い (p.80)	作文② 「私のおすすめ」 を書く	作文②の フィード バック
第 3 課 「留学の準備」 (p.20)	■ ペア / グループで話しましょう 【順番に気をつける・言葉を増 やす】 ■ アウトラインを使いましょう	■ ルール 3. 原稿用紙の使い方 (p.25) ■ ルール 4. 接続語を使う (p.27) ■ もっと！作文ルール 3. 順接と逆接の接続語 (p.80) ■ もっと！作文ルール 4. 指示語を使う (p.81)	作文③ 「留学の準備」 を書く	作文③の フィード バック
第 4 課 「私の『普通』と あなたの『普通』」 (p.30)	■ ペア / グループで話しましょう 【比べて話す・深く考える】 ■ アウトラインを使いましょう	■ ルール 5. アウトライン（構成） を考える——段落・中 心文・支持文 (p.34) ■ もっと！作文ルール 5. 対比・問題・意見の表 現 (p.82)	作文④ 「私の『普通』と あなたの『普通』」 を書く	作文④の フィード バック

課	活動 1 アイデアさがし	活動 2 作文ルールを学ぼう	活動 3 作文を書く	活動 4 フィードバック
第 5 課 「朝型か、夜型か」 (p.38)	■ ペア / グループで話しましょう 【意見を話す・反対の立場に なって考える】 ■ アウトラインを使いましょう	■ ルール 6. 意見を論理的に述べる (p.42)	作文⑤ 「朝型か、夜型か」 を書く	作文⑤の フィード バック
第 6 課 「グラフを読む・ グラフを書く」 (p.49)	■ ペア / グループで話しましょう 【グラフに慣れる・グラフを 使って自分のことを話す】 ■ アウトラインを使いましょう	■ ルール 7. グラフを説明する表現 (p.54)	作文⑥ 「グラフを読む・ グラフを書く」 を書く	作文⑥の フィード バック
第 7 課 「グラフを読む・ 意見を述べる」 (p.59)	■ ペア / グループで話しましょう 【複雑なグラフを説明する・深 く考える】 ■ アウトラインを使いましょう	■ ルール 8. 意見を表す表現 (p.64) ■ ルール 9. 「道しるべ文」を使う (p.67)	作文⑦ 「グラフを読む・ 意見を述べる」 を書く	作文⑦の フィード バック
第 8 課 総まとめ (p.69)	■ 復習 作文集を作ろう ■ テスト練習 ■ 力だめし作文（もう一度） ■ 作文チェックリスト ■ いろいろな作文のテーマ	■ もっと！作文ルール 6. Eメールの書き方 (p.84)	—	—
かく (各クラスで)	■ 作文集配布 ■ 期末テスト			



アイコンの紹介

サクさん



ブンさん



サク・ブンおしゃべり

サクさんが、ちょっと作文が苦手なブンさんのおしゃべりを読みながら、どんなことを書けばいいか考えましょう（おしゃべりというのは、リラックスして楽しく話合ふことです）。2人のおしゃべりをペアの人と一緒に声を出して読んでみてください。



ペア / グループで話しましょう

おしゃべりを楽しんでください。そこから作文のアイディアがきっと出てきます。できるだけいろいろな人と話してみましょう。発見があります。



アウトラインを使いましょう

おしゃべりしたことを作文にするためにどんなアウトラインを使うか、読んでみましょう。



フクロウ先生

フクロウ先生は作文が上手になるヒントをくれます。



書いてみましょう。



／「もっと！ 作文ルール」

もっと深く言葉の練習をしたいとき、ここを使ってください。



練習問題の解答

練習問題の答えのページがあります。自分で考えてから、確かめてください。